

二〇一七年三月二日(参加者一六名)

| | |
|----------------|-----|
| 裸木の珠と散りばむ雨雫 | うつき |
| 立浪のごとくに丘の梅白し | うつき |
| 鎖樋せせらぎの楽春の雨 | うつき |
| 春雨の珠こぼれ落つ鎖樋 | うつき |
| 梅が枝の蕾に紛る雨滴 | せいじ |
| 春の雨彩色しるき多宝塔 | せいじ |
| 佇めば珊瑚礁めく梅の丘 | せいじ |
| 春雨のリズム生まるる鎖樋 | 小袖 |
| 朱の門の一步に園の梅香る | 小袖 |
| 白梅のなだれ咲く丘匂ひけり | 小袖 |
| 亡き友の思ひ出語り梅探る | 菜々 |
| あたたかや水子地蔵は供華囀ひ | 菜々 |
| 梅真白石の櫃の門へかざし | 菜々 |
| 紅白の梅綾なして丘埋む | はく子 |
| 芽吹き初む枝に雨粒滂沱なる | はく子 |
| 花あせび雨滴に鈴を落しさう | はく子 |

梅の丘読経を流すスピーカー

Vサインしても芽出づ汀かな

梅林の雨のベンチは役立たず

閻王と目の合ひてより春愁ふ

堅く閉じ雨を拒みし椿かな

参磴を春雨傘の登りくる

適適と春の雨音くさり樋

梅林の奈落に響く読経かな

満開の梅林迷路めきにけり

楼門の甍を濡らす春の雨

石棺へ雨の羨道春寒し

石窟の羨道暗く菜種梅雨

定例会の選

二〇一七年三月二日(参加者一六名)

こすもす

こすもす

たか子

たか子

なおこ

なおこ

宏虎

ぼんこ

よう子

よし子

満天

わかば